



外国出張報告書

平成 27 年 3 月 12 日

1. 出張国名 フィリピン、インドネシア
2. 出張月 平成 26 年 12 月～平成 27 年 3 月
3. 出張目的 2015 年乾期作の試験及びインドネシア稲研究センター(ICRR)にて試験
 圃場の視察：A

4. 成果の概要

生育期間の短期化、すなわち早生化は天水田での乾燥ストレス回避に有効な形質であると考えられる。2015 年乾期作では、乾燥耐性品種 Carreon の出穂性遺伝子 *Hd1* を IR64 に導入した戻し交雑系統群について、IRRI の圃場で早生の表現型を確認するために遺伝子型診断および作付けを行った。また、2014 年雨期作で、止葉や 1 穂粒数について *SPIKE* の典型的な表現型を示した Ciherang や TDK1 を遺伝的背景とした系統群の作付けを行った。インドネシア稲研究センターで現地評価を行っている早朝開花系統における開花期の開花時刻について、IRRI での結果と同様に、早朝開花系統では IR64 に比べて早く開花し、インドネシアの雨期でも早朝開花の表現型が維持されることが分かった。